

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2016 年 8 月

「クリスチャンの節制（Ⅱ）」 「奉仕の生涯」 「第三の封印と第四の封印」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「クリスチャンの節制 (II)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「奉仕の生涯」

8

今日のわたしの生涯

現代の真理

「第三の封印と第四の封印」

40

七つの封印と生ける神の印

力を得るための食事

「グルテン」

50

お話コーナー

「イエスさまの子供時代」

52

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話 : 0494-22-0465

FAX : 0494-40-1045

【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話 : 088-831-9535

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話 : 0980-55-8136

アクセス

ホームページ : <http://www.4angels.jp>

メール : support@4angels.jp

発行日 2016 年 7 月 31 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Dreamstime on front cover;
HighRes on pages 8, 52, Joe Maniscalco
on page 48, and back cover.

Printed in Japan

わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ

神が、聖なる都に向かう再臨信徒の旅と、婚宴から帰って来られる主を持つ人々に与えられる豊かな報いとを、わたしに示されたので、神がわたしにあらわされたことの概略を述べることは、わたしの義務であると思う。愛する聖徒たちは、多くの試練を経なければならない。しかし、われわれのこのしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させてくれる。わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くのである。わたしは、天のカナンから、良い報告といくつかのぶどうを持って帰ろうとした。……

主にある兄弟姉妹がた、そこは、良い地である。われわれは、のぼって行って、それを所有することができる。

わたしが、家庭の礼拝で祈っていたときに、聖霊がわたしにくだった。そして、わたしは、暗い世界から、高く高く上にのぼっていくように感じた。わたしはふり向いて、地上にいる再臨信徒たちを捜したが、見つからなかった。すると、「もう一度見なさい。もう少し上を見なさい」という声が聞こえた。それでわたしが目をあげてみると、地上のはるか上の方に、まっすぐな狭い道がかかっていた。この道の上を、再臨信徒たちは、都に向かって旅していた。都は、その道の向こうの端にあった。道のはじめに、明るい光があつて、彼らを後ろから照らしていた。あれは夜中の叫びですと、天使がわたしに言った。この光が、道をずっと照らし、彼らがつまづかないように、足もとを明るくしていた。もし彼らが、彼らのすぐ前にいて彼らを都に導いておられるイエスに目をとめていれば、彼らは安全であった。(初代文集 61～63)

その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う。これは主の口から語られたものである(イザヤ 58:14)。

16 章 クリスチャンの節制 (Ⅱ)

わたしたちの体

人の体は聖霊の宮です (コリント第一 3:16, 17; 6:19, 20)。ですから、自分の霊的な健康ばかりでなく、身体的な健康を保つことに非常に注意することは、神のみにわたしたちの義務です。聖霊に導かれている人はみな、クリスチャンの節制、すなわち御霊の実の一つの諸原則に従います (使徒行伝 24:25; ガラテヤ 5:22, 23)。

終わりの時代に肉を食すること

「きよい動物」の肉の使用が使徒たちの時代には容認されていましたが、福音の目的は万物が、エデンの食事を含め、元々の純潔さに回復されることです (使徒行伝 3:19-21)。主はご自分の民がカナンの地に入る前に肉の使用をやめることを望んでおられたように、今わたしたちにキリストの来臨と天のカナンの準備の一部として終わりの時代に肉食をすべてやめることを要求されます (民数記 11:4-20, 31-34; 詩篇 78:17-32; 106:14, 15; コリント第一 10:5, 6, 11 (cf. イザヤ 22:12-14, 20-22; 黙示録 3:7, 8)。イザヤ 22:12-14 は、1844 年に始まった贖罪の日の本体に特別にあてはまります。

禁止を知りながら、あくまでも豚、モルモット、ねずみや他の忌むべきものや禁じられたものを食べ続ける人々は滅ぼされることになります (レビ記 11:7; イザヤ 66:15-17 (cf. テサロニケ第二 1:7-9) ; 使徒行伝 15:20; レビ記 3:17)。

終わりの時代の肉食に関する預言の霊からの指示は、聖書と調和しています。

「『あなたは完全に肉食を廃されるおつもりですか』とあなたは尋ねるかもしれない。私は答えて言う。『最後にはそこに達するのであるが、今はその段階を踏む準備が私たちにできていない。肉食は最後には廃止される。動物の肉がもはや私たちの食事の一部でなくなり、私たちは肉屋も嫌悪感をもって見るようになるであろう。』」(食事と食物に関する勧告 384 (1884))。

「肉類は神の民によって食されなくなるであろう」(同上 75 (1884))。

「主の来臨を待っている人々の間で、肉食は最終的に廃止されるであろう。肉類が彼らの食事の一部を占めなくなるのである。我々は常に、この目的を覚えつつ、それに向かって着実に行動するよう努力すべきである。肉食の習慣にある限り、神が喜んで与えて下さった光に調和しているとは考えられない」(同上 355 (1890))。

「肉食は重大な問題である。人間は、死んだ動物の肉を食べて生きていくべきだろうか。神に与えられた光による回答は、『否、絶対に、否』である」(同上 363 (1897))。

健康改革についての光がすでに神の民にもたらされていたにもかかわらず、世紀の変わり目(1899-1900)に肉食の廃止が述べられている主な理由は、再臨信徒たちがまだ食事の問題に関するすべての光を受け入れる準備ができていなかったからです。「兄弟よ、あなたは食事の問題を神の民にとっての試金石としてはならない」(同上 189 (1901))。

「肉食をする人々は、神がこの問題についてお与えになっている警告を全く無視しており、自分たちは安全な道を歩いているという何の証拠も持たないのである」(同上 358 (1902))。

「地上歴史のこの段階において、肉食は神を辱めるものである。世をノアの時代のようにしているのは、肉食と飲酒である」(聖書訓練学校 1902 年 7 月 1 日)

「肉食の問題について、現在半分しか改心していない多くの者が、神の民から離れ去って、もはや彼らと共に歩まなくなるであろう」(食事と食物に関する勧告 356, 357 (1902))。

「神の民は肉食に反対して、確固とした立場をとるべきである」(同上 358 (1902))。

「神が残りの教会に、肉類、茶、コーヒー、及びその他の有害な食物の使用を廃止するように勧告なさるのは、彼ら自身の益のためである。我々が食して生きて行くことのできる食物で、健康的で優れた物が他にも充分にあるのである」(食事と食物に関する勧告 356 (1908))。

1909 年に教会は「肉の使用を教会員の試金石として」はならないと指示されていました(教会への証 9 巻 159)。なぜなら、多くの牧師や指導者たちがまだ肉食者であったからです(教会への証 9 巻 160)。そのため、厳密な菜食を新し

い教会員の試金石として課することができませんでした。「最も厳密な食事を指示する時に至っていない」(教会への証 9 巻 163)。

しかし同時に、食事に不適切なものを止めるよう命じるさらに進んだ段階が予告されていました。

「肉、茶、コーヒーの使用、そして濃厚で不健康な食事の準備の害について教えを受けた人、そして犠牲を払ってでも神と契約を結ぶことを決意した者が、不健康だと知っている食物に対する食欲を欲しいままにし続けることはない。神は食欲が清められるべきこと、そして良くないものに関して自己否定を実践すべきことを命じておられる。この働きは神の民が神のみ前に完全な民として立つことができる前に成し遂げられなければならない」(同上 153, 154 (1909))。

キリストの来臨がこれほど近づいているのですから、わたしたちは「犠牲を払ってでも神と契約を結ぶことを決意した者が、不健康だと知っている食物に対する食欲を欲しいままにし続けることはない」時に至ったと信じます(食事と食物に関する勧告 356)。ですから、半分だけ改心した人、すなわちまだ肉が食べたい人は、神の残りの民に加わることはできません。「最も厳密な食事を指示する〔べき〕時」に至ったことはわたしたちに明らかです。

漸進的な食事の改革

「食事の改革は漸進的に行うべきである。動物の病気が増えるにつれて、牛乳と卵の使用がますます危険になるであろう。健康的で安価な他のものを用いて、それらの代わりにするよう努力すべきである。牛乳や卵をできるだけ用いずに、しかも、食物は健康的で味良く料理する方法を、至るところの人々に教えるべきである」(食事と食物に関する勧告 340)

その上、男女の間の悪が増すのに比例して、動物の間で病気が増しているため、今や動物製品の使用が安全ではないことは明らかです。

「食事の改革が漸進的なものとなるようにしなさい。人々にどのようにして牛乳やバターを使わずに食物を用意するかを教えなさい。人々の間の悪が増すのに比例して動物の病気が増すがゆえに、まもなく卵、牛乳、クリーム、バターを使用するのが安全ではなくなる時が来ると彼らに告げなさい。堕落した人類の悪のゆえに、動物界全体が地を呪う病の下にうめく時は近い」(教会への証 7 巻 135)。

本来の食事の回復

世のはじめ、罪が入る前に神はわたしたちのはじめの両親に次のように言われました。

「わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう」（創世記 1:29）。

「穀類、果実、堅果類、野菜がわたしたちのために創造主のお選びになった食物である」（ミストリー・オブ・ヒーリング 274）。

「肉食をやめたならば栄養があり、食欲をそそる各種の穀類、堅果類、野菜、果実などをもって補わなければならない」（同上 291）。

「神の最初のご計画、すなわち人間が地の自然の産物を食べて生きていくという計画に、神は我々を一步一步導き返そうとしておられることを、私は繰り返し示された」（食事と食物に関する勧告 354）

「道徳的な原則が厳格に実行されるとき、それは魂の唯一の安全策となる。もし食事が最も単純な種類のものとなるべき時があるとすれば、それは今である。肉はわたしたちの子供たちの前に置かれるべきではない。その感化力は低俗な情欲を興奮させ、また強めて、道徳的な力を死滅させる傾向がある。動物性の油を用いずにできるだけ自然な状態で調理された穀物や果実が、昇天のために準備していると主張するすべての人の食卓の食物となるべきである。食物が熱っぽくなければその分だけ、感情は統御しやすくなる。身体的、知的、あるいは道徳的健康に関係なく、嗜好の満足を考えてはならない」（教会への証 2 巻 352）。

聖書の中で、肉食は承認されてはいないが、禁じられてはいないと主張する人々は（箴言 23:20; ローマ 14:21; cf. ヤコブ 4:17）、「初めからそうではなかった」こと（マタイ 19:8）、すなわち回復の働きが完成すべき時（使徒行伝 3:21）、そして万物が新しくされる時（黙示録 21:5）にはそうではないことを理解すべきです。

「終末時代に、神のすべての制度が回復される」（国と指導者下巻 277）。

今日のわたしの生涯

My Life Today



8月「奉仕の生涯」

神はすべての良い働きのうちに わたしを完全にして下さる

「永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死人の中から引き上げられた平和の神が、イエス・キリストによって、みこころにかなうことをわたしたちにして下さり、あなたがたが御旨を行うために、すべての良きものを備えて（すべての良い働きのうちにあなたを完全にして）下さるようにこい願う。栄光が、世々限りなく神にあるように、アメン。」（ヘブル 13:20, 21）

イエス・キリストの宗教は単なる言葉以上の良い事を意味する。キリストの義は、純潔で利己的でない動機から起こる正しい行動や良い働きから成り立つ。……キリストはみ父のみ旨を行うために来られた。わたしたちはこのお方のみ足の跡に従っているだろうか。キリストのみ名を名乗る者はすべて、このお方をもっと親しく知ろう努力すべきであるが、それはキリストが歩まれたように歩み、キリストのみ働きを行うためである。……

わたしたちの命と運命について大いなる力で語ることが、わたしたちのなす働き、あるいはなさない働きである。神は、わたしたちに提供されているすべての機会を有益に利用するようにと、わたしたちに求めになる。これを行うことを怠るとき、わたしたちの霊的成長が危険になる。わたしたちにはなすべき大いなる働きがある。（ビュー・アンド・ワールド 1886 年 6 月 22 日）

主がわたしたちの道に置かれる義務を、わたしたちは、気乗りのしない憂鬱な任務としてではなく、愛の奉仕として行うべきである。あなたの働きに、あなたの最高の能力と思いやりを注ぎ込みなさい。そうすればキリストがそこにおられることに気づくであろう。このお方のご臨在はその働きを軽くし、あなたの心は喜びに満たされる。あなたは神と調和して働き、忠誠心と愛をもって誠実に働く。わたしたちは、自分の手にゆだねられた働きを忠実に行いつつ、真面目で熱心なクリスチャンでなければならない。（ビュー・アンド・ワールド 1906 年 3 月 1 日）

神の祭壇からの細い自分の灯心を燃え立たせる者はみな、自分の灯りをしっかりと保つ。彼は自分の香炉に普通の火を用いなくて、日夜神のみ力によって燃え続けている聖なる火を用いる。イエスのみ足の跡を歩む者、自分の生涯をイエスの導きと奉仕に明け渡す者は、自分たちの灯りと共に、入れものの中に金の油を持っている。彼らは、神が用意しておられない場所に置かれることは決してない。生命の灯りは、それを灯したまさにその手で常に整えられる。（手紙 48、1897 年）

良いわざに熱心であれ

「このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法から贖い出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。」(テトス 2:14)

キリストに従う者は、奉仕をするために贖われたのである。主は、奉仕が人生の真の目的であることをお教えになった。キリストご自身が、勤労者であられて、彼に従うすべての者に、神と人類に仕えるという、奉仕の法則をお与えになる。ここで、キリストは、彼らが、これまで考えもしなかったところの人生に対する高尚な見方をお示しになった。他のための奉仕に生きるということは、人をキリストに結合させる。奉仕の法則が、わたしたちを、神と同胞に結びつける鎖となるのである。

キリストは、その僕たちに、「自分の財産」、つまり、神のために用いるべき何物かをお与えになる。キリストは、「それぞれ仕事を割り当てて」おられる。すべての者は、天の永遠の計画の中に自分の占めるべき場所があるのである。だれでも、魂を救うために、キリストと協力して働かなければならない。天の住居の中に、わたしたちの場所が確実に用意されているのと同じように、わたしたちがこの地上で神のために働くべき場所が、定められているのである。……

神と共に働く者となることを願っている者は、体のすべての器官と精神の能力とを完全な状態にするように努力しなければならない。真の教育とは、あらゆる義務を遂行することができるように、体的、知的、道徳的能力を準備することである。それは体と心と魂を神の奉仕のために訓練することである。……

神は、すべてのクリスチャンが、あらゆる面において、力量を増し、能率をあげることを求めておられる。キリストはご自身の血と苦悩という代価をわたしたちのために支払われた。そして、わたしたちが、喜んで奉仕することを待っておられるのである。主は、わたしたちがどのように働き、またどのような精神で働くべきであるかの実例を示すために、この世界にこられた。また、主はどうすれば神の働きを前進させ、神のみ名の栄えになるかを、わたしたちが研究することを望んでおられる。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」とある。この父に、わたしたちの最高の愛と献身をささげて、栄光を帰すことを研究するように、主は望んでおられる。(キリストの実物教訓 300～305)

神のために勤勉に働く

「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。」
(コロサイ 3:23)

この世でなすべき大きな働きがある。男女共に、舌の賜物や奇跡のわざによるのではなく、十字架に掛かられたキリストの教えによって改心すべきである。世をより良くするための努力がなぜ遅れているのであろうか。どうして何かすばらしいことが行われたり、何か高価な器具が備えられるのを待つのだろうか。……わたしたちが行うあらゆることに、その働きが店であっても農場であっても事務所であっても、わたしたちは魂を救うための努力をその働きに持ち込むべきである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1765 年 1 月 5 日)

現世は、恵み深い機会にあふれている。あなたは他の人々を祝福するために神があなたに与えて下さった能力を働かせ、また自分のことを考えずにそうすることにより、自分自身を祝福することによって、その機会を生かすことができる。平凡な状況はしばしば、原則によって行動し、正しいがゆえに正しいことを行う習慣を形造っている人にとって、明らかな祝福であることがわかる。完全な品性を求めなさい。そして、あなたの行うすべてのことが人の目にふれてもふれなくても、また正しく理解されてもされなくても、神の栄光のためにだけ行われるようにしなさい。なぜなら、あなたは神に属している者であり、神はご自身の命の価であなたを贖われたからである。大事と同様に小事に忠実でありなさい。真理を語り、常に真理を実行することを学びなさい。心を神に完全に明け渡しなさい。もしも神の恵みに支配されるなら、あなたは小さな親切な行為を行い、自分のそばにある義務を取り上げ、人生を歩む道すがら、愛と祝福という賜物をふりまきながら、あなたの生活と品性に持ち込むことのできる日光をすべて持ち込むであろう。あなたの働きは永遠に至るほど広範囲にわたる。あなたの生涯の働きは天に見られており、とだえることなく存続する。なぜなら、その働きは神の御目に尊いものと見られるからである。(ユース・インストラクター 1886 年 12 月 5 日)

かりそめにも行う価値のあるものは、申し分なく行う価値があることを覚えていなさい。(同上 1892 年 9 月 29 日)

あなたの光を輝かせよ

「あなたがたは世の光である。……そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ 5:14～16)

あなたがたが光の中を歩むなら、あなたがたは世に対して光を広める者となることができる。何か大きな働きを成し遂げようとして、手近にあるささいな機会を無視しないようにしなさい。わたしたちは日常生活の中で真理の良い実例となることによって非常に多くのことを行なうことができる。わたしたちがこのように及ぼすことのできる影響力に対して、簡単に逆らうことはできない。人々はわたしたちの論理と戦い、これを否定することができるかもしれない。またわたしたちの嘆願を拒むかもしれない。しかし、聖なる目的をもった生涯、自分自身の利害には関係しない愛の生涯は、人々が反論することのできない真理に益となる証である。信心深い模範が欠けているときに、へりくだって献身している高潔な生活は、説教が及ぼす感化よりもはるかに多くの感化を及ぼすことができる。あなたは教会を設立するために、あなたの兄弟たちを励ますために、また集会を興味深いものにするために働くことができ、収穫の野で働いている働き人と共に、鋭い鎌のような祈りを口に出すことができる。一人一人が働きを成功させるために見張り、また祈って、魂に対する重荷を負い、個人的な関心を持つべきである。

あなたはまた、柔和に他の人々の注意を神のみ言葉の尊い真理に引きつけることができる。若い人々は……決して講壇の上から真理を示すことはできないかもしれないが、一軒一軒まわって、世の罪を取り除く神の小羊を人々に指し示すことができる。誤解というちりやごみが真理という尊い宝石を埋もれさせてしまっているが、主の働き人はこれらの宝をおおっているものを取り除くことができる。そうすれば多くの人が喜びと畏れをもってこの宝を見るであろう。

さまざまな思いや多岐にわたる能力に合った非常に多くの種類の働きがある。神の日には一人といえども、自分の利己的な関心に閉じこもっていたことに対して言い訳をすることはできない。あなたが自分の魂を生き生きとさせ続けるのは、他人のために働くことによってである。……熱心で無私の努力はイエスのために束を集めて貯える。……主は力強い助け手であられる。(ヒストリカル・スケッチ 181、182)

家庭でも家庭外でも愛を増し加える

「どうか、わたしたちの父なる神ご自身と、わたしたちの主イエスとが、あなたがたのところへ行く道を、わたしたちに開いて下さるように。どうか、主が、あなたがた相互の愛とすべての人に対する愛とを、わたしたちがあなたがたを愛する愛と同じように、増し加えて豊かにして下さるように。」(テサロニケ第一 3:11,12)

伝道の働きは家庭の中で行われるべきである。キリストを受け入れた人々は、ここで恵みが自分たちのために何をして下さったかを示さなければならない。神の感化がキリストを真に信じる者を支配し、この感化は家庭全体に感じられるようになり、家庭内のすべての者の品性を完全にするのに都合よく働く。

家庭の義務を忠実に行うと、家庭外の人々にも感化を及ぼす。家庭内でのわたしたちの霊的成長は、わたしたちの伝道活動を広い範囲のものにする。父親は家の中で、教会のための働きにふさわしいという証拠が得られねばならない。家族の一人一人が、熱心な、またへりくだった心で、キリストが心に宿っておられることを知るよう努めるべきである。そうすれば彼らは奉仕のために武具を完全にまもって出て行くことができる。……

家庭をそのあるべき姿、すなわち天の家郷の象徴にしようとする努力は、より広い領域における働きのためにわたしたちを準備させる。互いに優しい配慮を示すことによって受け入れられた教育は、真の宗教の原則を教えてもらう必要のある心に届く方法を、わたしたちが知ることができるようにする。教会は、得られるかぎりの啓発された霊的力をすべて必要としており、そのために特に主の家族の若い教会員をすべて注意深く守る必要がある。家庭で生きている真理は、私心のない家庭外での働きの中で真理を感じさせる。家庭でキリスト教徒として生きている人はどこでも光輝く明かりである。(サイン・オブ・タイムズ 1898年9月1日)

家族の一人一人が家庭内での自分たちの働きで団結すればするほど、父や母、息子や娘たちが家庭外で及ぼす感化も高められ、役立つものとなる。(ビュー・アンド・ワールド 1903年12月17日)

神の証人である少女

「スリヤ王の軍勢の長ナアマンはその主君に重んじられた有力な人であった。……彼は大勇士であったが、らい病をわずらっていた。さきにスリヤびとが略奪隊を組んで出てきたとき、イスラエルの地からひとりの少女を捕えて行った。彼女はナアマンの妻に仕えたが、その女主人にむかって、『ああ、御主人がサマリヤにいる預言者と共におられたらよかったでしょうに。彼はそのらい病をいやしたことでしょう。』」（列王紀下 5:1～3）

この少女は家庭から遠く離れた奴隷であったけれども、神の証人のひとりで、神がご自分の民としてイスラエルを選ばれた目的を無意識のうちに達成したのである。彼女がその異教の家庭で仕えていたときに、彼女の主人を気の毒に思った。そして、エリシャが行った驚くべき癒しの奇跡を思い出して、その女主人に向かって、「ああ、御主人がサマリヤにいる預言者と共におられたらよかったでしょうに。彼はそのらい病をいやしたことでしょう」と言った（同五ノ三）。彼女は、エリシャには天の神の力が宿っているのを知っていた。そして、この力によってナアマンは癒されると信じたのである。

異教の家庭における捕らわれの少女の行動とその態度は、初期の家庭訓練の力を力強く証明している。父親と母親にゆだねられた任務の中で、子供の保護と訓練ほど重要なものはない。……

わたしたちは子供たちがどのような奉仕に召されるかを知らない。彼らは家庭の中で一生を過ごすかもしれない。また人生の一般の職業に従事することであろう。あるいは、異教の地に福音の教師として出かけるであろう。しかし、すべての者は同じく神のための伝道者、世界に対するあわれみの使者として召されているのである。……

このヘブルの少女の両親は、彼女に神のことを教えたときに、彼女がどんな運命をたどるかを知らなかった。しかし、彼らはゆだねられた任務に忠実であった。そして、スリヤの軍勢の長の家庭において、彼らの子供は彼女が導ぶことを学んだ神のための証を立てたのである。（国と指導者上巻 212, 213）

神は資源を供給される

「弟子たちがイエスのもとにきて言った……『群集を解散させ、めいめいで食物を買いに、村々へ行かせてください』。するとイエスは言われた……『あなたがたの手で食物をやりなさい』。弟子たちは言った、『わたしたちはここに、パン五つと魚二ひきしか持っていません』。イエスは言われた、『それをここに持ってきなさい』。……天を仰いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たちに渡された。弟子たちはそれを群集に与えた。……パンくずの残りを集めると、十二のかごにいっぱいになった。」
(マタイ 14:15 ～ 20)

このたとえの中には、神の働き人にとって深い霊的な教訓が含まれている。……イエスは神に全く信頼して、小さなパンのかたまりを手に取り、その量はご自分の弟子たちのためにすら少ない程であったが、弟子たちに食べるようにとは仰せにならず、人々に渡すようにと彼らに命じつつ、パンを分け与え始められた。その食物はイエスの手の中で増えていき、ご自身が生命のパンであるキリストに差し出している弟子たちの手は決して空にならなかった。そのわずかな量が全員に十分足りた。人々の必要が満たされた後、パンくずが集められ、キリストとその弟子たちは、その尊い、天が備えて下さった食物を食べた。

弟子たちはキリストと人々との間の伝道の通路であった。このことが今日のキリストの弟子たちにとって大きな励ましとなるべきである。キリストは大いなる中心、すべての力の源であり、この方の弟子たちはキリストから自分たちの必要なものを受けねばならない。……わたしたちは分け与え続けるとき、受け続ける。そして多く分け与えれば分け与えるほど、もっと多く受け取る。……

天からの雨を受け入れる水たまりに出口はないことに注目しなさい。これはだれにとっても祝福ではなく、よどんだ利己心で周囲の空気を汚す。さあ山腹からあふれ出る流れ、その流れが行き巡って渴いた地を潤すその流れを見なさい。この流れはどれほどの祝福をもたらすことであろうか。あまりに惜しみなく与えたとその資源を使い果たしてしまうのではないかと人は考えるが、そうではない。与える流れが決して不足することはないというのは神の偉大な計画の一部であり、日ごとに、年ごとに、流れは受け続け、与え続けながら流れる。(サイン・オブ・タイムズ 1902 年 1 月 22 日)

いにしえの道を繕う

「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる。」(イザヤ 58:12)

このみ言葉の中で明細に述べられている働きは、神がご自分の民にするようにと命じておられる働きであり、神ご自身が指定された働きである。神の戒めを支持する働きと、神の律法の中でなされた違反を回復する働きに、わたしたちは苦しんでいる人類への同情を混ぜるべきである。わたしたちは神に対して最高の愛を示し、汚れた足で踏みつけられている神の記念碑を高めねばならない。こうすることによって、わたしたちは墮落した人類への憐みと善意、また最も優しい同情を示すべきである。「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」。民としてわたしたちはこの働きをしなければならない。苦しんでいる人類にあらわされた愛は、真理に意義と力を与える。(教会のための特別な証シリーズ A No. 10, 3, 4)。

世界の福音伝道は、神がご自分の名によって出て行く人々に与えておられる働きである。彼らは、滅びるばかりとなっている人々に、キリストの優しく憐み深い愛をあらわしつつ、キリストの協労者にならねばならない。神は何千もの人々に、真理を知っている人々に説教したり、同じ場所を何度も行き巡るのではなく、恵みの最後のメッセージを聞いたことのない人々に警告することによって、ご自分のために働くようにと呼びかけておられる。魂を熱心に求める気持ちに満たされた心で働きなさい。医療伝道の働きをなさい。このようにしてあなたは人々の心に近づくことができる。真理をもっとはっきりと宣布する方法は用意されている。人々の身体上の苦しみは、あなたが彼らの霊的な必要に奉仕する機会を与えてくれることに、あなたは気づくであろう。

主はこの働きにおいてあなたを成功させて下さる。なぜなら、福音が実際生活に織り込まれ、生きて実践されるとき、福音は救いに至る神の力だからである。身体のためのキリストのような働きと魂のためのキリストのような働きの結合は福音を真に説明することになる。(ビュー・アノド・ヘアルド 1902 年 3 月 4 日)

イエスは奉仕するために来られた

「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためである。」(マルコ 10:45)

キリストが地上で生活された場所を訪れ、キリストが歩まれた場所を歩き、キリストが好んでお教えになった湖のほとりや、キリストがたびたび目をとめられた丘や谷を眺めることができた大きな特権だろうと思う人が多い。しかし、イエスの足跡を歩むために、ナザレやカペナウムやベタニヤに行く必要はない。病床のかたわらや、貧しいあばらやや、大都会の雑踏する横町や、人の心が慰めを必要としている場所ならどこにでも、イエスの足跡が見出される。イエスが地上におられたときになされたとおりのことをすることによって、われわれはイエスの足跡を歩むのである。……

無知と罪の鎖につながれて滅びようとしている幾百千万の魂が、彼らに対するキリストの愛を聞いたことさえないのである。もし、わたしたちと彼らの立場が入れかわったとしたら、わたしたちは彼らにどうしてももらいたいと望むだろうか。わたしたちは自分の力の及ぶ限り、そうしたことをすべて彼らのためにする最も厳粛な義務がある。わたしたちはひとりびとり皆キリストの一生の原則によって、さばきの時に立つか倒れるかしなければならないのであるが、その原則とは、「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」である。

救い主は、悲しみに満ち、試みられている魂を世話することのできる教会を建てるために、ご自分の尊い生命をお与えになった。信者の群れは、貧しく、無教育で、無名の人たちかも知れない。しかし、キリストのうちにあるとき、彼らは、家庭において、近隣において、教会において、また遠い地方において働くことができ、その結果は永遠と同じように遠大なものとなる。

多くの若い弟子たちが、クリスチャン経験のほんの初歩から一步も前進しないのは、この働きがおろそかにされているからである。イエスから「あなたの罪はゆるされた」と告げられたときに、彼ら自身の心のうちに燃えた火は、困っている人たちを助けることによって燃えつづけることができたのである。若い人たちにとって危険の原因となりやすい不安定な精力は、祝福の流れとなつて流れ出る水路へと導くことができたのである。他人のためによいことをする働きによって自我が忘れられるのである。(各時代の希望下巻 112, 113)

苦しんでいる人類を救済する

「また神の国を宣べ伝え、かつ病気をなおすためにつかわして」(ルカ 9:2)

キリストは、病人や苦しんでいる人々がご自分のもとへ連れてきてもらうことができるようにと、ガリラヤのなだらかな緑の丘の上や他の場所に仮の病院を作られた。キリストは、巡り歩かれたあらゆる都市で愛情にみちた御父の優しい思いやりをもって、苦しんでいる人々にご自分の手を置き、彼らを健康にされた。キリストはご自分の教会が同じ働きをするために、能力を与えておられる。(手紙 168、1902 年)

キリストは、ご自分の地上での伝道が終りに近づいたときに、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」という厳粛な任務を弟子たちに託し、弟子達の奉仕は、病人の健康を回復することをとおして確証を得られるであろうと宣言された。あなたが「病人に手をおけば、いやされる」とキリストは言われた(マルコ 16:15、18)。キリストのみ名によって身体の病気を癒すことにより、弟子たちは魂の癒しのためのキリストの力を証したのである。

救い主が弟子たちに委ねられた任務は、時の終りにまで至るすべての信者をも含む。……今日ほど世が教えと癒しを必要としている時はない。奉仕してもらう必要のある人々、すなわち弱い人、無力な人、無知な人、墮落している人が世界に満ちている。(両親・教師・生徒への勧告 466、467)

神の民は本当の医療伝道者でなければならない。彼らは魂と体の必要に奉仕するために学ばなければならない。痛みを和らげ病気を取り除くための非常に役立つ単純な治療を施す方法を知らなければならない。彼らは健康改革の原則に詳しくなって、それにより他の人々に、正しい飲食や衣服の習慣によって、病気になるのをどのように防ぎ、また健康を回復するかを示すことができる。……偉大な医者であられる方は……へりくだって、ご自分に信頼しつつ、現代の真理を分け与えようと努力しながら前進する一人一人を祝福される。(レビュー・アンド・ヘラルド 1904 年 5 月 5 日)

病人の癒しは特別な意味においてわたしたちの仕事である。(伝道 544)

男女に命の水を与える

「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」(ヨハネ 4:14)

キリストはサマリヤの婦人と話をされたとき、ヤコブの井戸をけなす代りに、さらに良いものをあげられた。……キリストは与えようとする宝に話題を向け、婦人が持っているものに勝るものを提供なさった。それは生ける水、すなわち福音の喜びと望みであった。(ミストリー・オブ・ヒーリング 128、129)

キリストはこの一人の女にどれほど多くの関心を示されたことか。この方の言葉はどれほど熱心で感銘を与えたことだろう。この女はその言葉を聞くと、水がめを置いて、会う人ごとに「わたしのしたことを何もかも言いあてた人がいます。さあ見にきてごらんさい。もしかしたら、この人がキリストかも知れません」と言いながら、町に入って行った。その町のサマリヤ人がたくさんキリストを信じたと書かれている。その言葉がそのとき以来何年間も魂の救いのために及ぼした感化を誰が推定できるであろうか。(レビュー・アンド・ヘルド 1904 年 4 月 7 日)

イエスは人々と個人的な接触をするために来られた。このお方はご自分の助けを必要としている人々から離れて立ったり、離れて行ったりはされなかった。イエスは人々の家庭に入り、悲しんでいる人を慰め、病人をいやし、不注意な人に注意を呼びかけ、善を行いつつ巡り歩かれた。だから、わたしたちがイエスのみ足跡に従うのなら、わたしたちはこのお方がされたようにしなければならない。このお方がされたのと同じ種類の助けを人々に与えなければならない。(同上 1888 年 4 月 24 日)

主は恵みのみ言葉がすべての魂に深い感銘を与えることを望んでおられる。このことは大部分個人的な働きによってなしとげられなければならない。これがキリストの方法であった。キリストの働きは大部分個人的な面談によってなされた。主は、一人の聞き手に心からの配慮をおもちになっていた。しばしばその一人の魂がイエスから聞いた話を幾千の人々に伝えたのである。……こちらからもっていかなければ、福音に接することができない人々がおびただしくいるのである。(キリストの実物教訓 209)

子供たちのための働き

「するとイエスは言われた、『幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である』。」(マタイ 19:14)

救い主はどこへ行かれても、そのおだやかな顔つきと、やさしく親切な態度によって、子供たちの愛情と信頼とを勝ち得られた。……

ひとりの母親が子供をつれてイエスに会いに行くため家を出た。途中彼女は隣の人に自分の用向きを話した。するとその隣人も自分の子供たちをイエスに祝福していただきたいと願った。こうして数人の母親たちが子供たちをつれていっしょにやってきた。中には幼児の年令をすぎて、少年少女の年ごろの子供たちもいた。……しかし主は、弟子たちが彼らをどう扱うかをごらんになるために待たれた。主は、弟子たちがイエスのために尽したつもりで母親たちを追ひ払うのをごらんになると、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である」と言って、彼らのまちがいを示された。主は、子供たちをご自分の腕に受けとり、彼らの上に手を置き、彼らが受けにやってきたその祝福をお与えになった。(各時代の希望中巻 317～319)

神は幼い年令の子供が皆ご自分の子となり、ご自分の家族の養子となることを望んでおられる。彼らは若いかもしれないが、若い人が信仰の家族の一員となつて、最も尊い経験を持つことができる。……キリストは彼らを小さな伝道者にされる。この子供たちの思想の流れ全体が変えられ、それによって罪は憎むべき、遠ざけるべきものとなり、楽しむべきものではなくなる。……主はこの子供たちに伝道方針にそった経験をお与えになる。(手紙 104、1897年)

わたしたちが子供たちのために働くなら、何千何百という子供たちをキリストのもとに連れて行くことができる。(両親・教師・生徒への勧告 192)

子供たちには年老いた人や苦しんでいる人に同情し、また貧しい人や失望している人の苦しみを軽くしようと努めるような教育をしなければならない。彼らが伝道の働きに勤勉であるように教えられ、小さい頃から他の人々の善のために、またキリストの働きを前進させるために克己と犠牲を教え込まれるなら、神の共労者になることができる。(教会への証 6 巻 429)

著名な男女のための働き

「彼らに話しておられると、そこにひとりの会堂司がきて、イエスを拝して言った、『わたしの娘がただ今死にました。しかしおいでになって手をその上においてやって下さい。そうしたら、娘は生き返るでしょう』。そこで、イエスが立って彼について行かれると、弟子たちも一緒に行った。」(マタイ 9:18,19)

キリストはご自分の言葉を聞きたいと思うすべての人、すなわち取税人や仲間はずれにされた人々だけでなく、金持ちや教養のあるパリサイ人、ユダヤ人の貴族、百卒長、またローマの支配者などすべての人のために働かれた。これがなされねばならない働きである。(医事伝道 312)

上流階級があやしむべきほど無視されている。高い身分で人生を歩んでいる人々の中に、真理が一貫しており、その真理が福音の気高い性質のしるしを帯びているために、その真理に反応する人が多く見出されるであろう。このようにして、み事業へと勝ち取られた能力のある人々が多く、主のみ働きに精力的に加わるようになる。(教会への証 7 卷 112)

統治者や政治家たち、責任と権威の地位を占めている人々、あらゆる階級の心ある男女、一すべての者は、周囲に起こりつつある事件に注意を集めている。彼らは国と国との間に存在する緊張した不穏な関係を見守っている。彼らは地上のあらゆる要素に緊張が加わりつつあるのを見て、そこに何か決定的な大事件がいまにも起ころうとしており、世界が途方もない危機の淵に臨んでいることを認めている。(教育 212)

弁護士や大臣、上院議員、裁判官などのうち、多くの人が不節制な習慣の奴隷であることを……わたしたちは忘れてはならない。この人々の魂は救う価値があり、永遠の生命はそれを求めて努力する価値があるということを彼らに示すために、わたしたちは疲れを知らぬ努力をしないではいられない。(教会への証 7 卷 58)

この地上の最も偉大な人物をも、不思議を行われる神の力が救い得ないことはない。……キリストを信ずるようになると、多くの人は自分と同一階級中の他の人々のために働く働き人となり、神に用いられるようになる。……こうした伝道によって、どんなことが成し遂げられてきたかは、この世が終ってはじめてわかるであろう。疑いに悩み、世俗と不安に疲れ果てた魂が、来る者をすべて救おうと切望しておられる大治癒者にどれくらい導かれたかは永遠に至ってわかるのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 193, 194)

貧者のために働く

「イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸會堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病氣、あらゆるわずらいをおいやしになった。」(マタイ 9:35)

キリストはなんと忙しい生涯を送られたことであろう。このお方が、貧困と悲しみにみまわれている粗末な住居に入って行き、落胆している者に希望を語り、失望している人に平安を与えておられる姿が日毎に見られた。貧しい者や苦しんでいる者は特別にこのお方の注意を引いた。子供たちはこのお方を愛して、思いやり深いこのお方に引きつけられた。単純で愛に満ちた言葉を口にするにより、キリストは子供たちの中に生じているいざこざをなんども静められた。ご自分のひざに子供たちを座らせ、この子たちの心を勝ち取る方法で話しかけられた。……

へりくだって、恵み深く心の優しい、憐み深いお方、キリストは善を行い、飢えた者に食べさせ、打ちひしがれている者を引き上げ、悲しんでいる者を慰めながら、巡り歩かれた。助けを求めてこのお方の所へ来た者は、誰も助けを受けずに去ることはなかった。キリストが後に続くようにと、ご自分の子らに残された型には一筋の利己心も織り込まれてはいなかった。このお方は、ご自分を信じるすべての者に生きてほしいと願うその生涯を送り、み父のみ旨を行うことがこの方の食物と飲み物であった。助けを求めてご自分のところに來たすべての人に、キリストは信仰と希望と命を与え、行かれたところへはどこでも祝福をもたらされた。(福祉伝道 116)

わたしたちの救い主の優しい同情が、墮落して苦しんでいる人類のために呼びおこされた。あなたがこの方に従いたいのなら、あなたは思いやりと同情心を養わなければならない。人類の苦悩に対する無関心が、他の人々の苦しみに対する強い関心へと代らなければならない。やもめ、孤児、病人、また死にそうな人は常に助けを必要としている。ここには福音を宣布する機会、すなわちすべての人の希望と慰めであるイエスを示す機会がある。苦しんでいる体が、苦痛を取り除かれ、あなたが苦しんでいる人に心からの関心を示している時、心は開かれ、あなたは天来の香油を注ぐことができる。あなたがイエスを見続け、このお方から知識と力と恵みを引き出し続けるなら、あなたは他の人々にイエスの慰めを分け与えることができる。なぜなら慰め主があなたと共におられるからである。(医事伝道 1891年1月)

安息日に良いことをする

「安息日に良いことをするのは、正しいことである。」(マタイ 12:12)

第四条の戒めによって、安息日は休息と宗教上の礼拝のために捧げられた。宗教に関係のないすべての仕事は中断するべきであったが、憐みと慈悲の働きは主のご目的に一致しており、時と場所の制限はなかった。苦しんでいる者の苦痛を和らげ、悲しんでいる者を慰めることは、神の聖なる日をあがめる愛の働きである。(贖いNo. 3、46)

生活上の必要に備え、病人を世話し、困っている人々の欠乏を満たさねばならない。安息日に、苦しみをやわらげることをおこたる者は罪をまぬかれない。神の聖なる休み日は、人のためにつくられたもので、あわれみの行為は、安息日の意図に完全に一致している。神は、ご自分の被造物が安息日でもほかの日でも、苦しみをやわらげられるものなら、一時間でも苦しむことをお望みにならない。

.....

安息日は何の活動もしない無益な日として与えられているのではない。律法には、主の休み日に世俗の仕事をする 것을禁じてある。生活費を得るための働きはやめなければならない。世俗的なたのしみや金もうけのための働きをこの日にすることは、律法にかなわない。だが神が創造の働きをおやめになって、安息日に休み、これを祝福されたように、人間も日常生活の仕事を離れて、この日の聖なる時間をもつば健康的な休みや礼拝や聖なる行為に用いるべきである。病人をいやされたキリストの働きは、律法に完全に一致していた。それは安息日をとうとぶことになった。(各時代の希望上巻 252, 253)

苦しんでいる者の苦しみを和らげるための労働は憐みの働きであり、安息日を犯すものではないと、わたしたちの救い主によって宣言された。(教会への証 4巻 539)

苦しんでいる人類の必要は決して無視してはならない。救い主は、ご自分の模範によって安息日に苦しんでいる者の苦しみを和らげるのは正しいことであることをわたしたちに示された。(同上 7巻 106)

わたしの隣り人とは誰か

「すると彼は……イエスに言った。『ではわたしの隣り人とはだれのことですか』。」
(ルカ 10:29)

ユダヤ人の間では、「わたしの隣り人とはだれのことですか」という問題は、絶えない議論の種であった。彼らは、異邦人やサマリヤ人についてはなんの疑問も持たなかった。彼らは、異国人であり、敵であった。しかし、自国民と社会の各階級の中でどこに区別を設けるべきであろうか。……キリストは、この質問に対して、よいサマリヤ人のたとえを語って、お答えになった。わたしたちの隣人は、単に自分の教会の一員であるとか、わたしたちと信仰を同じくする者とかいうのではないことをお教えになった。そこには、人種、皮膚の色、または階級の差別がない。わたしたちの隣人とは、わたしたちの助けを要するすべての人をいうのである。わたしたちの隣人は、敵に出会って傷つけられたすべての魂である。わたしたちの隣人は、神の財産であるすべての人である。(キリストの実物教訓 353, 354)

貧困に苦しんでいるすべての人はわたしたちの隣り人である。魂の敵に捕えられ、神が与えてくださった成人男女を破滅させる悪い習慣の奴隷となってつなわれ、道に迷っているアダムのすべての息子、娘はわたしの隣り人である。(ビュー・アソド・ヘルド 1895 年 11 月 12 日)

わたしたちの隣り人とは、単なる自分の仲間や特別な友ではなく、単にわたしたちの教会に属している人々や、わたしたちが、考えているような人々ではない。わたしたちの隣り人とは全人類家族である。わたしたちはすべての人に善を行い、とりわけ信仰の家族に善を行うべきである。神の律法を実行するということが何を意味するのかを、わたしたちは世に示さねばならない。わたしたちは神を最高に愛すべきであり、隣り人を自分自身のように愛するべきである。(ビュー・アソド・ヘルド 1895 年 1 月)

神は今日、人が自分の隣り人を愛するかどうかを示す機会を人に与えておられる。神と自分の同胞を真に愛する人は貧困者、苦しんでいる人、傷ついている人、死にかけている人々に憐みを示す。神は、すべての人が自分の怠っていた仕事を取り上げ、人類の中に創造主の道德上のかたちを再生しようと努めるよう、呼びかけておられる。(手紙 113、1901 年)

隣りに真理を語る

「あなたがたのなすべき事はこれである。あなたがたは互に真実を語り、またあなたがたの門で、真実と平和のさばぎとを、行わなければならない。」(ゼカリヤ 8:16)

キリストと共に働いているすべての人に、「あなたが炉辺で人々に近づくことができるのであれば、そこで与えられた機会をも活かさない」と言いたい。聖書を手に持ち、彼らの前に聖書の偉大な真理を開きなさい。あなたの成功は、あなたの知識が豊富であったり、その人の心にふれる方法を見つける能力があることによるのではない。社交的であり人々に近づくことによって、あなたは最も力ある説教よりも、もっと速やかにその人々の思想の流れを変えることができる。(福音宣伝者 193)

出版物を持参して読むようにと勧めなさい。あなたがまじめであるのを見ると、彼らはあなたの努力をどれも軽蔑しないであろう。最もかたくなな心も動かす方法がある。キリストがそのために死なれた人々の魂に届くための助けとなる単純さをもって、まじめにへりくだって近づきなさい。(福祉伝道 91)

機会を活用しないで時が過ぎてしまうことを許してはならない。あなたの近くに住んでいる人々を訪問し、同情と親切心をもってその人々の心に達するよう努めなさい。病人や苦しんでいる人々を訪問し、その人々に思いやりのある関心を示しなさい。できることならその人々がもっと楽になるよう何かをしなさい。この方法を通して、あなたは彼らの心を動かし、キリストのために言葉を語ることができる。このような方針による働きがどれほど遠くまで及ぶかは、永遠に至って、わかるのである。(ビュー・アンド・ヘルド 1907 年 11 月 21 日)

この働きを取り上げない人々、また、ある人々が表していることに無関心を装っている人々は、まもなく初めの愛を失い、自分自身の兄弟たちを非難し、批判し、責め始める。(ビュー・アンド・ヘルド 1902 年 5 月 13 日)

主なるお方の精神で、真理を携えて魂を動かそうと努めつつ、出て行く人々は、……神の奉仕に自分自身を捧げるときにますます活気づく。他の人々に聖書を開くのは喜びに満ちた働きである。(教会への証 9 卷 118)

他の人を救うことにより自分自身を救う

「自分のことと教のこととに気をつけ、それらを常に努めなさい。そうすれば、あなたは、自分自身とあなたの教を聞く者たちとを、救うことになる。」(テモテ第一 4:16)

雪が深く降り積もっている冬の日旅をしていて、寒さのゆえに無感覚になってしまい、自分の生命力がほとんど消えかかっているのも分らなくなっていた人のことをわたしは読んだことがある。この人はほとんど死ぬほどまでに凍えており、生きる努力を止めようとしていたそのときに、やはり寒さで死にかかっている同行の旅人のうめき声を聞いた。同情心がおこり、この人はその旅人を救おうと決心した。彼は不運なその人の氷のように冷たくなった手足をこすり、かなりの努力をした後、その人を立たせた。その人は立つことができなかったので、彼は一人のときには決してできないと考えていた吹きだまりの中を、その人を同情にあふれた腕で支えて連れて行った。

彼が同行の旅人を安全な場所まで連れて行ったときに、自分の隣人を救うことで、自分自身も救ったのだという真理が、彼の心にひらめいた。もう一人の人を救おうとする彼の熱心な努力が彼自身の血管を凍らせていた血液を活気づけ、四肢の先端にまで健康な暖かさを送ったのである。

他の人々を助けることによって、わたしたち自身が助けを受けるという教訓を、若い信者に絶えず教訓と模範によって力説しなければならない。それは、彼らのクリスチャンの経験に最善の結果を得ることができるためである。永遠の命に至る道は苦しく困難であると考えがちな人々、落胆している人々に、他の人々を助ける働きをさせなさい。神の光を求める祈りと結びついたそのような努力は、自分自身の心を神の恵みの活気づける感化力で高鳴らせ、神のさらなる熱情で自分自身の深い愛情を燃えたたせるようになる。彼らのクリスチャン生活全体が、もっと真実でもっと熱心なもっと祈りに満ちたものとなる。……安息日の礼拝に彼らもたらず証は力に満ちている。彼らは喜びをもって他の人々のために働くことによって得た経験の尊いことを証する。(福音宣伝者 198, 199)

情深く、あわれみ深い者となる

「互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。」(エペソ 4:32)

イエスをご自分の尊い生涯であらわされた優しさと憐みを、わたしたちが自分の同胞を取り扱う方法の模範としよう。……多くの人が人生の大きな苦闘の中で弱りはて、落胆しているが、その人々への親切な励ましの一言や勇気づける一言は打ち勝つ力を与える。……わたしたちの優しい親切な言葉、また誰かの重荷を軽くしようとするキリストのような努力が、どれほど遠くまで影響を及ぼすかをわたしたちは語ることはできない。罪を犯している者は、柔和と親切と優しい愛の精神によらなければ回復することができない。(教会への証 5 巻 612, 613)

あなたの同胞との取引きすべてにおいて、あなたは神の所有物と取引きをしているのだということを決して忘れてはならない。親切で憐み深く礼儀正しくしなさい。神が買い取られた所有物を尊重しなさい。互いに優しく礼儀正しく接しなさい。(レビュー・アンド・ヘラルド 1897 年 8 月 24 日)

あなたが心に恨み、疑い、妬み、嫉妬心を抱くなら、あなたには、これらの思いを正しいものとするためにすべきことがある。あなたの罪を告白し、あなたの兄弟と和合しなさい。その人々について良いことを語りなさい。他の人の心に不信任感を抱かせるような、好ましくないほめかしや暗示を投げかけてはならない。あなたがその人々にあなたの評判を守ってほしいのと同じぐらい、その人々の評判を厳粛に守り、あなたがイエスに愛されている者であるようにイエスに愛されているその人々を愛しなさい。(レビュー・アンド・ヘラルド 1884 年 4 月 29 日)

神の恵みは、商売の取引きすべてにおいて、人々が自分の取引きをしている相手の立場に自分の身を置くよう導く。自分自身のことばかりでなく、相手のことも考えるよう導く。神の恵みは優しさと同情、そして親切へと人々を導くのである。正しい精神を大切にし、聖なる生涯を送る、すなわちこれがキリストのようであるという意味である。……

あなたの生涯を聖書の幅広く寛大な原則、良い意志と親切、そして礼儀正しさという原則に支配してもらいなさい。(手紙 30、1887 年)

英明な心を持つ

「わたしは……賢い、英明な心を与える。」(列王紀上 3:12)

若いころのソロモンは、ダビデの選択をわがものとした。この世のどのような財宝にもまして、彼は知恵と悟りの心を神に願い求めた。……ソロモンの理解力、広い知識、治世の栄華は世界の驚異となった。(教育 43)

ソロモンの治世の初期に、主のみ名は大いにたたえられた。王が示した知恵と義は、彼が仕える神の優れた特性をすべての国々に証したのである。しばらくの間、イスラエルは世の光となり、主の偉大さを示したのである。ソロモンの治世の初期の真の栄光は、卓越した知恵、驚くばかりの富、また、彼の広範囲に及んだ権力と名声にあったのではなかった。それは、彼が神の賜物を賢明に用いることにより、イスラエルの神の名をたたえたことにあったのである。

年月が経過して、ソロモンの名声が高まったときに、彼は、自分の知的、霊的能力を強めて、彼が受けた祝福を他の人々に分け与え続けることにより神に栄光を帰そうとした。彼に権力と知恵と悟りが与えられたのは、主の恵みによるものであること、また、これらの賜物が与えられたのは、彼が王の知識を世界に伝えるためであったことを他のだれよりもよく知っていたのは彼であった。(国と指導者上巻 9)

人が真理によって改心するとき、品性を変える働きが行われる。神に対して従順な者になることについての理解力が増していく。神の思いと意志がその人の意志となり、絶えず勧告を求めて神を見続けることにより、その人の英明さが増していく。全面的に神のみ霊の導きのもとにおかれた精神は全般的に発達する。(レビュー・アンド・ヘラルド 1887 年 7 月 19 日)

あわれみに満ちた者となる

「光は正しい者のために暗黒の中にもあらわれる。主は恵み深く、あわれみに満ち、正しくいらせられる。」(詩篇 112:4)

愛と同情心のあるところ、他人を祝福し高めようとする心のあるところには、神の聖霊の働きがあらわされる。異教主義に閉ざされた所で、聖書にしるされた神の律法も知らず、キリストの名も聞いたことのない人々が、自分たちの命の危険をも顧みないで、神の使者たちを親切に扱い、保護したことがある。彼らの行動は、神の力の働いたことを示している。聖霊が未開地の人々の心にキリストの恵みを植えつけ、彼らの性質や教育とは全く反対の同情心を呼び起こしたのである。……

キリストは、すべて向上することを望む者を高めてご自分との交わりに入れようとしておられる。これは、キリストが父と一つであられるように、わたしたちをキリストと一つにするためである。わたしたちを利己主義から救い出すために、苦難や災難に会うことをお許しになる。神は、わたしたちのうちに、神の品性の特徴である同情と優しさと愛をはぐくもうと望んでおられる。この奉仕の仕事を受けいれることによって、わたしたちは、キリストの学校にはいり、神の宮廷にふさわしい者とされる。……

天に住む者たちが地上で行なう働きに協力することによって、わたしたちは、天で彼らと交わる準備をしているのである。「救を受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわれた」み使いたちは、この地上で、「仕えられるのではなく、仕えるため」に生きた人々を喜んで迎えるのである。わたしたちは、この祝福された交わりのなかで、永遠の喜びに満ちあふれて、「わたしの隣り人とはだれのことですか」という質問に含まれたすべてのことを学ぶことができるであろう。(キリストの実物教訓 362-368)

あらゆる愛の行為、あらゆる親切な言葉、苦しんでいる人や圧迫されている人のための一つ一つの祈りが永遠のみ座の前で報告され、天にある不滅の記録に載せられる。(教会への証 5 巻 133)

隣り人と共に讃美し、祈る

「彼らは喜んでさんびし、頭をさげて礼拝した。」(歴代志下 29:30)

家から家へと、愛と同情をもって真理を示すことは、キリストが弟子たちを初めての伝道旅行につかわしたときに、弟子たちに与えられた教えと調和している。家族の輪の中で神への讃美の歌と、へりくだった心からの祈り、そして聖書の真理を単純に示すことにより、多くの人の心に触れる。聖なる協力者たちは、「わたしはいつもあなたがたと共にいる」というキリストのみ約束を、働き人の心に確信させるために存在している。そのような助け主が臨在して下さるという保証をもって、わたしたちは信仰と希望と勇気をもって働くことができる。(レ・ユー・アノ・ヘラルド 1907年11月21日)

歌うことについての賜物を持っている人が必要である。歌は心に霊的真理を印象づけるのに最も効果的な方法の一つである。しばしば聖なる歌の詩によって、悔い改めと信仰の泉が開く。……教会員は若くても年配であっても、この最後のメッセージを世界に宣布するために出て行くための教育を受けるべきである。彼らがへりくだって出て行くな、神のみ使いたちが共にいて、祈りでは声をどのように出すか、讃美では声をどのように張り上げるか、現代のための福音のメッセージをどのように宣布するかを教えてくれるであろう。(レ・ユー・アノ・ヘラルド 1912年6月6日)

讃美を最も単純に歌うことを学びなさい。この学びは、あなたが訪問伝道をするのに役立ち、人々の心は聖霊の感化に触れるであろう。キリストが讃美の歌声を響かせておられるのがよく聞かれた。……キリストの心には喜びがあった。一人の悔い改めた罪人のゆえに天のみ使いたちの間に喜びがあり、主はご自分の教会が讃美にあふれているのを喜ばれると、わたしたちはみ言葉から学ぶ。(レ・ユー・アノ・ヘラルド 1902年11月11日)

弟子達のように、あなたがたは救い主の愛についての話をしながらあちらこちらへと出かけ、友を作って、あなたの働きの実を見るのである。(レ・ユー・アノ・ヘラルド 1904年2月4日)

みなしごとやもめを見舞う

「父なる神のみまえに清く汚れない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにほかならない。」(ヤコブ 1:27)

わたしたちの関心を大いに必要としているすべての人々の中で、やもめとみなしごとが、わたしたちの優しい同情と世話を最も強く必要としている。……

神の永遠のみ約束に頼りつつ、信仰のうちに死んだ父親は、主が自分の愛する者たちの世話をして下さると完全に信頼して、家族を後に残した。そして主はどのようにしてこれらの遺族のために備えをされるのであろうか。主は、天からマナを送るような奇跡を行うのではなく、これらの人々に食物を持って行くためにからすを送られるのでもなく、人間の心に奇跡を働かせ、魂から利己心を追い出し、善意の泉を開かれる。主はご自分に従っていると告白する人々に、苦難のうちにある人々、遺族、貧者、また孤児をこれらの人々の優しいあわれみにゆだねることにより、彼らを試みられる。(ビュー・アンド・ワルド 1893 年 6 月 27 日)

父を失った子供を連れた多くの寡婦が勇敢に二重の重荷を負おうと努力し、幼い者を自分のそばにおいて養育するために、過分の労働に身を置くことが多い。子供をしつけ、教育する時間も、生活を明るくするように環境を改善する機会もほとんどない。こういう母親は励ましと同情と实际的な助けを必要とする。神は、わたしたちができるだけのことをして、こうした子供になき父親の保護の補いをせよと命じておられる。……働き疲れている母親を助けるように努めなさい。(ミストリー・オブ・ヒーリング 180)

安楽な生活に必要なものが備わっている家庭や、豊かな収穫物で満たされた貯蔵庫や穀物倉、機織機械で織った衣類で一杯になった被服倉庫、それに金銀のたくわえられた倉庫の中に、神はこうした貧しい人々をささえるための物資を備えておられる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 180)

やもめやみなしごと、貧しい人々に対して同情心を持っている人々をキリストは永遠の生命を持つ戒めを守る人々として述べておられる。(教会への証 3 巻 512)

飢えた者にわたしのパンを分け与える

「飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ」……「事ではないか。」(イザヤ 58:7)

純潔な宗教とは何であろうか。純潔な宗教とは、家庭で、教会で、そして世界で、憐みと思いやり、そして愛を働かせることであるとキリストはわたしたちに言われた。……

わたしたちは、わたしたちの愛や優しさ、そして世話を必要としている他の人々のことを考え、世話をすべきである。わたしたちは、自分がキリストの代理者であり、キリストが与えて下さる祝福を、わたしたちに再び返すことのできる人々ではなく、自分の世俗的な、また霊的な必要を満たす賜物を喜んで受ける人々と分けあうべきであることを、絶えず覚えていなければならない。ほとんど楽しみのない人々を助ける目的で、またその人々のわびしい生活に明るさをもたらす目的のために、そしてその人々の貧困や困窮を救う目的で宴会をする人々は、キリストの教えと調和した無私の行為を行っているのである。(レブ・アノ・ハルド 1895年11月12日)

わたしたちは自分の周囲に貧しい人、苦しんでいる人を見る。食物を必要としている家族がおり、パンを求めて泣いている小さな子らがいる。貧しい家には適切な家具や寝具がなく、多くの人が便利な設備のほとんどない、単なるあばら家に住んでいる。貧しい者の叫びは天に届き、神は見えておられ、また聞いておられる。(教会への証 6 巻 385)

貧困の人々のための働きは、……現代の真理を信じているあらゆる教会が、ずっと以前から行っているその働きである。わたしたちは、身体の必要を満たし、飢えた者に食物を与え、さすらえる貧しい者をわたしたちの家に入れ、わたしたちが人々のみじめさのきわみにまで到達できて、自分自身を助けることのできない人々を助けることのできる恵みと力を日々神から受けていたサマリヤ人の優しい思いやりを示さなければならない。この働きをする中で、わたしたちは十字架にかかれたお方、キリストを示すのに都合の良い機会が得られる。(教会への証 6 巻 275)

裸の者に着せる

「わたしが……裸であったときに着せ」(マタイ 25:35,36)

キリストは……飢えかわいていたのはわたしだったのだと言われる。見知らぬ人はわたしだったのだ。病んでいたのはわたしだったのだ。獄にはいついたのはわたしだったのだ。……あなたのたんすの中にぜいたくな衣服がいっぱいつまっていた時に、わたしは着るものが何もなかった。あなたが快楽を追い求めている時に、わたしは獄の中で弱りはてていたのだ。

あなたが飢えている貧しい人たちに、ほんの少しのパンをしぶしぶ分け与えたときに、また身を切るような寒さから彼らをおおうために薄っぺらな衣服を彼らに与えたときに、あなたはそれを栄光の主に与えていたのだということを知っていたらどうか。あなたの一生の間、わたしはそうした苦しむ者の姿をとってあなたのそばにいたのだ。しかしあなたはわたしを求めなかった。あなたはわたしとの交わりにはいろうとしなかった。わたしはあなたを知らない。(各時代の希望下巻 111)

クリスチャンと称する人々の中で、町や都市に住む飢えた人々すべての欠乏を満たし、裸の者に着せるための金銭が、宝石や装飾といった贅沢な見せびらかしに費やされている。けれども柔和でへりくだっているイエスに従っていると公言する人々も適切な食物と快適な衣服は必要である。これらの教会員は、不十分な生活必需品にもこと欠く切り詰めた貧困を知っている尊敬に価する貧しい人、苦しんでいる人、またやもめやみなしごと神の日に向かい合うとき、何と言うのだろうか。この人々すべての欠乏を満たすのに十分な金銭が、キリストに従っていると公言する人々によって、神のみ言葉の中ではっきりと禁止されている無用な衣服や不必要な装飾品に費やされていたのに。(レ・ユー・ア・ンド・ヘラルド 1878 年 11 月 21 日)

イザヤ五八章の中に、神の民がキリストの方針に従って行うべき仕事ははっきりと示されている。神の民は、あらゆるくびきを壊し、飢えた者に食物を与え、裸の者に着せなければならない。……もしも彼らが憐みと愛の行為の中で神の律法の原則を実行するなら、彼らは神のご品性を世にあらわし、天の最も豊かな祝福を受けるであろう。(レ・ユー・ア・ンド・ヘラルド 1895 年 8 月 20 日)

しえたげられた者を救い

「善を行うことをならい、公平を求め、しえたげられた者を救い、みなしごを正しく守り、寡婦の訴えを弁護せよ。」(イザヤ 1:17 英語訳)

人の模範であられた尊い救い主、イエスは真理と義務に関することには岩のように堅固であり、このお方の生涯は真の礼儀正しきの完全な実例であった。親切心と優しさがこのお方の品性に香りを添えた。イエスは貧しい人々やしいたげられている人々に対する思いやりのあるまなざしと慰め、励ます言葉をいつも持つておられた。……

あなたが心配でやつれ、悩んでいる人々、また慰めを得るためにどの道へ行けばよいか分らない人々に会うとき、その人々を助ける働きにあなたの心を用いなさい。ご自分の子らが、自分たちよりも運の悪い人々の幸福に関心を持たず、自分のことだけに閉じこもることは神のご目的ではない。キリストはあなたのために死なれたのと同じく、その人々のためにも死なれたことを覚えていなさい。慰めと親切心はその人々を助け、彼らの信頼を勝ちえて、希望と勇気をその人々に吹き込む道をあなたのために開く。(手紙 30、1887 年)

人は自分たちの仕事上の取引きにおいて、自分の心の優しさを奪うようなことをしてはならない。……親切な言葉、快活な表情、へりくだった態度には大きな価値がある。真に礼儀正しい人々の交わりには魅力がある。……そのようなふるまいの影響力は、貧しくしいたげられている人々、また病氣や貧困で地に引き倒されている人々にどれほどの回復と高揚をもたらすことであろうか。わたしたちは、そのような交わりがもたらす香油をそれらの人々に与えないのだろうか。(手紙 30、1887 年)

公平と憐み、また慈悲心から行う一つ一つの行為は天で快い調べを作る。御父はみ座からこれらの憐みの行為をする人々をご覧になり、それらの人々をご自分の最も尊い宝として数えられる。「そして万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる」。貧しい人々、苦しんでいる人々へのあらゆる憐み深い行為はイエスに対してなされたものとしてみなされる。あなたが貧しい人を援助し、苦難のうちにある人、しいたげられている人々に同情し、みなしごの友として力を貸す時、あなたはイエスと身近な関係に入っているのである。(教会への証 2 巻 25)

目しいの目となり、足なえの足となる

「わたしは目しいの目となり、足なえの足となり、」(ヨブ 29:15)

注意深く、熱心な祈りをもって、念入りに見張っていなさい。重要な多くの業務を処理することに思いが奪われてしまって、真の信心深さが見過ごしにされ、目しいや他の不運なすべての人に対する神の助けの手であるあなたの存在の大きな憐み深い必要があるにもかかわらず愛が魂から消えてしまわないようにしなさい。一番友のいない人が最も配慮を必要とするのである。あなたの時間と力を人に正しく接するために「霊に燃え」、憐みを愛するために「主に仕え」ることを学ぶのに用いなさい。キリストが「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」と仰せになっていることを覚えていなさい。(原稿 109、1902 年)

神は、ご自分の民が自分よりも運が悪い人々に、はるかにもっと憐み深く、思いやりを持つようにと命じられる。……やもめやみなしごになされられねばならないのと同じ配慮が、目しいや他の身体上の弱さに苦しんでいる人々にも与えられるべきであると神は命じられる。私心のない善意が現代社会では非常にまれである。……クリスチャンであると公言する人々が神のみ言葉の単純で明確な教えを無視し、良心のとがめを感じないというのは不思議である。神は、これらの人々に、不運な人、目しい、足なえ、やもめ、またみなしごの世話をする責任をもたせておられるが、多くの人はそれに関してなんの努力もしていない。(教会への証 3 巻 516, 517)

この世で果すべき大きな働きがあり、わたしたちが地上歴史の終りに近づくにつれて、その働きは減ることなく、ますます大きくなっていくが、神の完全な愛が心に宿るとき、すばらしいことが行われる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1895 年 1 月 15 日)

貧しい者の父

わたしは「貧しい者の父となり、知らない人の訴えの理由を調べてやった。」(ヨブ 29:16)

これが、ヨブがキリストのご命令に従った高潔さの持ち主であるという証拠であった。イエスを通して人々は貧しい人々や苦しんでいる人々に対する優しい憐みの精神を持つことができる。……イエスは最も低いへりくだりにまで降りて、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられたが、それはわたしたちをご自分の共同相続人へと引き上げるためであった。キリストだけが与えることのできるものを全世界は必要としており、このお方はご自分に助けを求める者たちから身を引かれなかった。キリストは、今日、多くの人が言うように、「あの人たちが自分の事情でわたしを困らせたりしなければいいのだが。わたしは家や土地に投資するために、わたしの財産を蓄えておきたい」などと仰せにはならなかった。天の至高者であられるイエスは、全世界に神のご品性を明らかに示すという恵み深い目的のために、ご自分の天にある壮麗な住まいから離れられた。(サイン・オブ・タイムズ 1892 年 6 月 13 日)

貧困を取り去るなら、わたしたちは神の憐みと愛を理解できないし、思いやりにあふれた同情深い天におられる御父を知ることもできない。(医事伝道 243)

まず貧しい人の生活上の必要に対処し、それらの人々の身体上の要望や苦しみを軽くしなさい。そうすれば、それらの人々の心に通じる道が開かれているのがわかり、徳と宗教の良い種を植えつけることができる。(教会への証 4 巻 227)

福音が最も貧しい極貧の地方にもたらされる時ほど素晴らしい状況を呈することはない。……神のみ言葉からの真理が小作人のあばら屋に入り、貧しい人々の粗末な小屋を輝かせる。義の太陽からの光線が病人や苦しんでいる人に喜びをもたらし、神のみ使いたちがそこにいる。……ひどく嫌われて、見捨てられていた人々が信仰と許しを通して神の息子、娘の気高さへと引き上げられる。(福祉伝道 169)

キリスト教は貧しい人々の慰めである。(福祉伝道 172)

特に貧しい教会員のことを覚える

「だから、機会のあるごとに、だれに対しても、とくに信仰の仲間に対して、善を行おうではないか。」(ガラテヤ 6:10)

教会員の中で困っている人々の世話をする義務をキリストが教会に負わせておられることについては特別な意味がある。キリストは各教会の中に神に属する貧しい者がいることを許されている。こうした人はつねにわたしたちのうちにいるのであって、神は教会員にそうしためんどうをみるよう、個人的な責任を負わせておられる。真の家族の人々が互に助け合い、病める者を看護し、弱い者をささえ、無知な人に教え、経験のない者を訓練していくように、信仰の家族においても貧しい者や無力な者の世話をしなければならない。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 178, 179)

教会の貧しい人や病人の世話をするために注意深く思慮深い手配をすることは各教会の義務である。(福祉伝道 181)

キリストに従っていると主張する者が、貧困や辛苦のくびきを負っている兄弟姉妹の窮乏を軽くするのに失敗したり、自分の分を無視するなら、天の書に、キリストの聖徒の一人のうちにおられるキリストに示されたこととして記録される。キリストのみ言葉を他の人々に提示しながら、自分よりも運が悪かったり成功していない信仰の兄弟に優しい同情や配慮をあらわすのに失敗する多くの人々、非常に多くの人々に、主はなんとと言う清算をされることであろうか。(福祉伝道 210)

真のクリスチャンは貧しい人の友であり、繊細でやわらかく弱々しい植物を扱うように、途方にくれた不運な兄弟を取り扱う。神はご自分の働き人が神の愛と憐みを伝える者として、病人や苦しんでいる人々の中に入出入りすることを望んでおられる。神は、わたしたちが身分の上下、貧富、奴隷か自由人にかかわりなく、すべての人への取り扱いの中でキリストのようであるかないか、わたしたちが互いにどのように対処しているかを知るために、わたしたちを見ておられる。(福祉伝道 168)

主の貧しい人々に関する疑問はない。この人々は彼らの益となるあらゆる場合に助けを受けるべきである。(教会への証 6 巻 269)

わたしの霊性は強められ 健康は増進する

「そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。」(イザヤ 58:8)

これはわたしたちすべての者が切望することではないだろうか。ああ、天父のみ旨を行うことには健康と平安がある。「あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。もし、あなたの中からくびきを除き、指をさすこと、悪い事を語ることを除き、飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたの闇は真昼ようになる。主はあなたを常に導き、良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ、あなたの骨を強くされる。あなたは潤った園のように、水の絶えない泉ようになる。(医事伝道 1891 年 6 月)

もしもあなたが裸の者に着せ、貧しい者を…あなたの家に連れてきて、飢えた者にパンを施すなら、「そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ」る。善を行うことは病気を治す素晴らしい治療薬である。(教会への証 2 巻 29)

他の人々に善を行う喜びは、神経にひらめきわたる感情へ熱情を分け与え、血液の循環をはやめ、精神と身体を健康にする。(教会への証 4 巻 56)

純潔で汚れていない宗教は感傷ではなく、憐みと愛の働きをすることであり、この宗教が健康と幸福に必要である。この宗教は汚れた魂の宮に入り、罪深い侵入者を厳しく罰して追い出す。この宗教がみ座を占めるとその臨在により心を照らしながらすべてを捧げる。……魂の窓を天に向かって開き神の愛の陽光を入れてこさせる。この宗教と共に静穏と落ち着きがもたらされ、体力、精神力、道徳力が増す。天の雰囲気が生き生きとした活動的な代理者として、魂を満たすからである。(ビュー・アノド・ヘラルド 1901 年 10 月 15 日)

わたしは星のように輝いて永遠にいたる

「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになつて永遠にいたるでしょう。」(ダニエル 12:3)

その人の能力にしたがつて「僕にそれぞれ仕事を」指定しておられるお方は、義務を忠実に行う者に報いを与えないでおかれることは決してない。誠実で忠実な行為の一つ一つに神の是認と賞賛の特別なしるしのついた冠が被せられる。あらゆる働き人に「種を携え、涙を流して出て行く者は、束を携え、喜びの声をあげて帰ってくるであろう」というみ約束が与えられている。(教会への証 5 巻 395)

わたしたちの働きは、どんなに短く、またどんなに卑しいものであつても、単純な信仰をもって、キリストに従っていくならば、必ず報酬を受けることができる。いかに偉大で賢明な人々でさえも、得ることができなかったものを、最も弱く卑しい者が受けることができるのである。天の黄金の門は、自己を高める者のためには開かれない。また、高慢な心の者にもあけられない。しかし、永遠の門は、小さな子供のふるえる手が触れたときに広く開かれるのである。単純な信仰と愛とをもって神のために働いた者のうける恵みの報酬は、実に祝福されたものである。(キリストの実物教訓 383)

この働きをする者の額には犠牲的行為という冠が被せられ、彼らは報いを受ける。(教会への証 6 巻 348)

神のために働くすべての人にとって、この思想が激励となり励ましとなるべきである。現世においては、神のためのわたしたちの働きは、ほとんど実を結んでいないように思えることがあるが、たとえわたしたちにはその結果を見るのは許されなくても、善を行うわたしたちの努力は熱心でまた辛抱強くすることができる。わたしたちにはその努力は何もならないかのように見えるかもしれないが、救い主は、わたしたちの働きは天に記されており、その報いにもれることはない、わたしたちに保証しておられる。(教会への証 6 巻 305)

生涯を通して、困難なまた自己否定の生活を送るかもしれないが、……天の目には成功しているのであり、その人は神の気高い人々の一人として位置づけられる。「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになつて永遠にいたるでしょう。」(教会への証 5 巻 449)

研究 8

七つの封印と生ける神の印



第三の封印と第四の封印

それでは、今回は、第三の封印から見ていきましょう。

これは、ローマのコンスタンティヌス帝が、日曜日をローマ帝国全土の公の祝日にするという布告を出した年から始まり、法王制が確立されるまでの期間にあたります。

第三の封印：AD 313-538 黙示録 6:5-6（各時代の大争闘上巻 34-36, 38, 39, 43, 44）

「また、第三の封印を解いた時、第三の生き物が『きたれ』と言うのを、わたしは聞いた。そこで見ていると、見よ、黒い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、はかり (a pair of balances: 一対のはかり) を手に持っていた。すると、わたしは四つの生き物の間から出て来ると思われる声が、こう言うのを聞いた、『小麦一ますは一デナリ。大麦三ますも一デナリ。オリブ油とぶどう酒とを、そこなうな。』」(黙示録 6:5-6)

このように、馬の色が赤から黒へ変わりました。

サタンは、迫害（赤）によって真理を粉碎することができなかったのを見て、大背教（黒）とローマ教会の出現の原因となったところの妥協策を、ふたたび採用した。サタンはクリスチャンを、今度は異教徒ではなくて、世俗の事物に執着して、刻んだ像を拝むのと同様に偶像礼拝者となってしまった者たちと、結合させようとした。こうした結合の結果は、昔と同様に致命的なものであった。宗

教の仮面のもとに、虚栄とぜいたくがほしいままに行なわれて、教会は墮落した。サタンは聖書の教義をゆがめつづけ、無数の者を滅びに陥れるような伝説が、深く根をおろしつつあった。教会は、「聖徒たちにひとたび伝えられた信仰」を主張するかわりに、こうした伝説を支持し、擁護した。こうして、宗教改革者たちの非常な努力と苦難によって確立された原則が、崩壊した（各時代の大事闘 上巻 383〔強調付加：（ ） 注釈挿入〕）。（各時代の大事闘 34-36, 38, 39, 43, 44 参照）

また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるのは、自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった報い（真理を愛することを拒んだ NIV 訳）である（テサロニケ第二 2:10）。

馬の色が黒に変わったことは、大背教の時代が始まったことを表しました。そして、この背教は「妥協」によって引き起こされたのです。

イエスご自身、決して妥協によって安全をお求めにならなかった。イエスの心は全人類に対する愛であふれていたが、イエスは、彼らの罪を決して甘やかされなかった。イエスは、人々が自分の魂—イエスがご自分の血で買われた魂を滅ぼす道を歩むのを彼らの友としてだまっていながらおどきにならなかった。。イエスは、人が自分自身に忠実であるように、自分のもっと高い永遠の利害に忠実であるように、ほねおられた。しもべたちは同じ働きに召されているのであって、彼らは、不和を防ごうとして、真理を放棄するようなことがないように気をつけねばならない。彼らは「平和に役立つこと……を、追い求」るのであるが、真の平和は決して主義を妥協させることによって確保することはできない（ローマ 14:19）。だれでも主義に忠実であれば必ず反対がひき起される。霊的であるキリスト教は、不従順の子らによって反対されるであろう。しかしイエスは、弟子たちに、「からだを殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな」とお命じになった。神に忠実な者たちは、人間の権力やサタンの敵意を恐れるにおよばない。キリストのうちに彼らの永遠のいのちが確保されているのである。彼らのただ一つの恐れは、真理を放棄するようなことはないか、そうすることによって神からの名誉ある信任を裏切るようなことはないかということではなければならない（各時代の希望中巻 89, 90）。

しかし、この黒に象徴された背教の時代にあっても、イエスのみ足の跡に従い、真理に堅くたった人々がいました。そして、その力は神の愛でした。

長期にわたった激しい戦いの後、忠実なわずかの者たちは、教会が虚偽と偶像礼拝とを捨てることをなお拒否するならば、背信した教会との一致をすべて絶つ決心をした。彼らは、神のみ言葉に従おうとするならば、分離することが絶対に必要なことを認めた。……彼らは、神に対する忠誠と矛盾しないかぎり、どんな譲歩でもして、平和と一致を保とうとした。しかし、平和のために原則を犠牲にすることは、あまりにも大きな代価であった。真理と正義を曲げなければ得られない一致であるならば、彼らはむしろ不和をも、そして戦争をもいとわなかった(各時代の大争闘上巻 38, 39)。

だが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。

「わたしたちはあなたのために終日、死に定められており、ほふられる羊のように見られている」と書いてあるとおりである。しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである(ローマ 8:35-39)。

では、次に一つずつ、聖句に述べられている表現を見ていきましょう。

一対のはかり (A pair of balances) : (この異教とキリスト教の妥協が、神に反抗して立ち上がると預言された「不法の者」を出現させることになった(各時代の争闘上巻 44)。

聖書は、正しい諸原則が、すべての実業取引において遵守されるべきことを要求する。最も強い言葉で、それは偽りの取り扱いに対して有罪を宣告し、思想と言葉と行動における純潔を求める。「万軍の主はこう仰せられる、真実のさばきを行い、互に相いつくしみ、相あわれみ、やもめ、みなしご、寄留の他国人お

よび貧しい人を、しえたげてはならない。互に人を害することを、心に図ってはならない(だれも心に自分の兄弟に対して悪を想像してはならない)。(ゼカリヤ 7:9-10)。「主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか」(ミカ 6:8)。

「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。これが律法であり預言者である」とキリストは言われた(マタイ 7:12)。これらの言葉は、最高の重要性を持っており、わたしたちの生活の規則となるべきである。しかし、わたしたちはこの神聖な原則を実行しているであろうか。わたしたちは、自分の同胞仲間と接触するときに、自分たちが同様な状況にあったならば彼らにしてほしいと願うとおりに、彼らを扱っているであろうか。

神は日常生活によって人々をテストしておられる。しかし、このお方に奉仕していると高らかに公言する多くの人々はこのテストに耐えることができない。彼らはもうけを熱望するあまり、偽りの重りと欺きのはかりを使用する。聖書が彼らの生活の規則とはなっておらず、そのため、彼らは厳密な高潔さと忠誠の必要性を認めない。彼らは富を蓄えようと切望し、自分たちの仕事に不正直な企みが入り込むのを許す。世は彼らの処理を見ており、その商取引によって、彼らのクリスチャンの価値を測るのにくない。神も彼らの不正直をご覧になり、次のように尋ねられる。「不正なはかりを用い、偽りのおもしを入れた袋を用いる人をわたしは罪なしとするだろうか」(ミカ 6:11)。「あなたがた、貧しい者を踏みつけ、また国の乏しい者を滅ぼす者よ、これを聞け。あなたがたは言う、『新月はいつ過ぎ去るだろう、そうしたら、われわれは穀物を売ろう。安息日はいつ過ぎ去るだろう、そうしたら、われわれは麦を売り出そう。われわれはエパを小さくし、シケルを大きくし、偽りのはかりをもって欺き、乏しい者を金で買い、貧しい者をくつ一足で買いとり、また、くず麦を売ろう』。主はヤコブの誇をさして誓われた、『わたしは必ず彼らのすべてのわがをいつまでも忘れない』。」(アモス 8:4-7) … 「偽りのはかりは主に憎まれ、正しいふんどうは彼に喜ばれる」(箴言 11:1)。(サイン・ガブ・タムズ 1896 年 12 月 24 日)。

その舌をもってそしらず、その友に悪をなさず、隣り人に対するそしりを取りあげず(詩篇 15:3)。(ガラテヤ 6:1, ローマ 14:13, 15:1; ヨハネ 7:24; マタイ 19:19)。

誤りを指摘するもの(聖書)が除かれた……(各時代の斗争闘上巻 46)。

人をご自分のものとし、人の永遠の救いを確保するために、キリストは天の王宮を後にし、この地上に来られ、人の代わりに罪の苦悩と恥辱をしのばれ、人を自由にするために死なれた。人間の贖いのために支払われた無限の代価を見ながら、どうしてキリストのみ名を公言する者がこのお方の小さいものの一人でも無関心に取り扱うことができようか。教会の兄弟姉妹は、油とぶどう酒をそこなうことがないように、どれほど注意深く一つ一つの言葉と行為を守るべきであろうか! どれほど忍耐づよく、親切に愛情をもって、キリストの血で買われた者たちを扱うべきであろうか! どれほど忠実に、熱心に、彼らは気落ちしている者や失望している者たちを起こすために労すべきことであろうか! 真理に従おうとしていながら、家庭に励ましがなく、絶えず不振と闇の気配で呼吸している人々を、どれほど優しく扱うべきことであろうか! (教会への証 5 巻 614, 615)。

黒い馬に乗った者の持っていたはかりが、わたしたちにないかどうかを、血をもって罪人をあがなわれたキリストの愛の光に照らして、調べる必要があります。

次に第四の封印を見ていきましょう。これは、抵抗する最後の国家権力が倒れ、法王ローマが確立された 538 年から、ルターがローマ教会の免罪符の教義に反対する九十五か条の提題を示した 1517 年までの期間になります。

第四の封印：AD 538-1517 黙示録 6:7-8

「小羊が第四の封印を解いた時、第四の生き物が『きたれ』と言う声を、わたしは聞いた。そこで見てみると、見よ、青白い馬が出てきた。そして、それに乗っている者の名は『死』と言い、それに黄泉が従っていた。彼らには、地の四分の一を支配する権威、および、つるぎと、ききんと、死と、地の獣らとによって人を殺す権威とが、与えられた」(黙示録 6:7, 8)。

わたしたちの主イエス・キリストの来臨……について、……だれがどんな事をしても、それにだまされてはならない。まず背教のことが起り、不法の者、すなわち、滅びの子が現れるにちがいない。彼は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する(テサロ

ニケ第二 2:1-4)。

第六世紀に至って、法王権は確立した。その権力の座はローマに置かれ、ローマの司教が全教会の首長であると宣言された。異教は法王権に地位を譲った。龍は獣に、「自分の力と位と大いなる権威とを」与えた(黙示録 13:2)。こうして、ダニエル書と黙示録に預言されたところの、1260 年間に及ぶ法王権の迫害が始まった(ダニエル書 7:25, 黙示録 13:5-7 参照)。キリスト者たちは、神に対する忠誠を放棄して法王教の儀式と礼拝を受け入れるか、それとも、地下の牢獄に幽閉され、拷問や火刑、また斬首吏のおおで生命を失うか、そのどちらかを選ばねばならなくなった。「しかし、あなたがたは両親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られるであろう。また、あなたがたの中で殺されるものもあろう。また、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう」というイエスの言葉が、ここで成就した(ルカ 21:16, 17)。迫害は、これまで以上に激しく忠実な人々に向けられ、世界は一大戦場となった。何百年もの間、キリストの教会は人里離れた場所に難をのがれた。預言者はこのように言っている。「女は荒野へ逃げて行つた。そこには、彼女が 1260 日のあいだ養われるように、神の用意された場所があった」(黙示録 12:6)。

ローマ教会が権力を握ったことは、暗黒時代の始まりを意味した。教会の権力が増すにつれて暗黒は深まった。信仰は、真の基礎であるキリストから、ローマ法王へと移された。人々は、罪の許しと永遠の救いを求めて神の子によりたのむかわりに、法王や、法王が権力をゆだねた司祭や司教たちにたよった。彼らは、法王はこの地上における彼らの仲保者であつて、法王によらなければだれも神に近づくことができない、と教えられた。さらに、法王は神に代わつて彼らの前に立つ者であるから、絶対に服従すべきであると教えられた。……こうして人々の心は神から引き離されて、誤りの多い残酷な人々に、いや、彼らを通して力を振うところの暗黒の君自身に向けられた(各時代の斗争闘上巻 49, 50)。

しかし、「法王制の真昼は、世界の真夜中であつた。」(J. A. Wylie, The History of Protestantism, b. 1, ch. 4. 各時代の斗争闘上巻 57)。

また、あなたがた自身の中からも、いろいろ曲つたことを言つて、弟子たちを自分の方に、ひっぱり込もうとする者らが起るであろう(使徒行伝 20:30)。

そしてその衆群は、罪によって、常供(の燔祭)と共に、これにわたされた。その角はまた真理を地に投げうち、ほしいままにふるまつて、みずから栄えた(ダ

ニエル 8:12)。

ローマ教会の権力下にあった世界の状態は、預言者ホセアの言葉の恐ろしくも的確な成就である。「わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたは知識を捨てたゆえに、わたしもあなたを捨て、……あなたはあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる。」「この地には真実がなく、愛情がなく、また神を知ることもないからである。ただのろいと、偽りと、人殺しと、盗みと、姦淫することのみで、人々は皆荒れ狂い、殺害に殺害が続いている」(ホセア書 4:6, 1, 2)。これが神の言葉を捨てた結果であった(各時代の斗争闘上巻 58)。

この状態が、青白い馬と「死」に表されていました。

では、この聖句の中に現れる一つ一つの表現を見ていきます。

第四の生き物：第一の生き物はししのように、第二の生き物は雄牛のように、第三の生き物は人のような顔をしており、第四の生き物は飛ぶわしのようにであった(黙示録 4:7)。顔の形は、おのおのその前方に人の顔をもっていた。四つの者は右の方に、ししの顔をもち、四つの者は左の方に牛の顔をもち、また四つの者は後ろの方に、わしの顔をもっていた(エゼキエル 1:10)。その時ケルビムはのぼった。これがケバル川でわたしが見た生きものである。……これがすなわちわたしがケバル川のほとりで、イスラエルの神の下に見たかの生きものである。わたしはそれがケルビムであることを知っていた(エゼキエル 10:15,20)。

疫病：短期間(1348-1350)のうちに、ヨーロッパでは人口の三分の一の人が黒死病(ペスト)によって死にました。

神は彼らに悔い改めるおりをお与えになりました(黙示録 2:21：「わたしは、この女に悔い改めるおりを与えた」)。

幾千もの人々が剣によって、飢えによって、また野獣によって殺されました。そして体を殺すよりも悪いことに、はるかに多くの人々が命のみ言葉が隠されたがゆえに霊的な死をこうむりました。

ローマが至上権を握ってからの、暗黒時代における神の民の歴史は、天に記録されているが、人間の手になる記録には、あまり記されていない。彼らを迫害

した者たちによる非難以外には、彼らの存在の形跡はほとんどない。教義や命令に異議を唱えるものは、あとかたもなく抹殺してしまうことが、ローマの政策であった。教会は、人間であろうが書物であろうが、異端的なものはすべて滅ぼそうとした（各時代の大争闘上巻 60）。

無一物になり、悩まされ、苦しめられ、（この世は彼らの住む所ではなかった）（ヘブル 11:37-38）。

しかし、女は自分の場所である荒野に飛んで行くために、大きなわしの二つの翼を与えられた。そしてそこでへびからのがれて、一年、二年、また、半年の間、養われることになっていた（黙示録 12:14）。

この暗黒時代に、真にキリストに従う者とそうでないものを分けたのは、何だったのでしょうか。

キリストの弟子であると自称する人々の中に、常に二種類の人々がある。一方の人々は、救い主の生涯を研究して、自分の欠点を正し、模範に倣おうと熱心に求めるが、もう一方の人々は、彼らの誤りを指摘する明白で实际的な真理を避けるのである（各時代の大争闘上巻 36）。



べての人に対してやさしさと礼儀正しさを失うようなことはありませんでした。このお方は、家にいても、またどこにおられても、気持ちの良い日光のようであられました。

このお方は貧しい人や、老人に対して思いやりがあり、親切で、口のきけない動物たちにでさえ優しさをあらわされました。このお方は傷ついた小さな鳥を優しく世話されるのでした。そして、生き物はみな、このお方がそばにおられると、もっと幸せになるのでした。

キリストの時代、ユダヤ人たちは自分の子供たちの教育を非常に重要だと考えていました。彼らの学校は、ユダヤの会堂、つまり礼拝の場所と結びつけられていて、教師たちはラビと呼ばれ、とても学識があると思われていました。

イエスさまはこれらの学校に行かれませんでした。なぜなら、彼らは真理でないことを多く教えたからです。神様の言葉の代わりに人のことわざを勉強し、そしてしばしば、これらは神さまがご自分の預言者を通して教えてこられたことと正反対でした。

神さまご自身がご自分の聖霊によって、どのようにご自分の御子を育てるかをマリヤにお教えになりました。マリヤは聖書からイエスさまに教え、このお方はご自分でそれらを読み、研究することを学ばれました。

イエスさまはまた地や空に、神さまがおつくりになったくすしいみわざを学ばれることを愛されました。この自然という書物の中に、このお方は木、植物、動物たちを、そして太陽や星をごらんになりました。

日々このお方はこれらを観察され、そしてこれらから教訓を学び、また物事の理由を理解しようとされました。

聖なる御使たちはこのお方と共にいて、彼がこれらのことから神さまについて学ぶのを助けました。このようにしてこのお方はが背丈と力において成長されるとき、知恵にも知識にも成長されました。

すべての子供は、イエスさまがなさったように知識を得ることができます。わたしたちは真理であることだけを学ぶために時間を使うべきです。うそや、作り話はわたしたちにとってよくありません。

ただ真理だけに価値があります。そしてこれは神さまの言葉から、またこのお方のみわざから学ぶことができます。わたしたちがこれらのことを学ぶとき、天使たちはわたしたちが理解するのを助けてくれます。

わたしたちはわたしたちの天のお父様の知恵といつくしみ深さを見ましょう。わたしたちの知力は強くされ、わたしたちの心は純潔にされ、わたしたちはもっとキリストに似てくるのです。

グルテン（小麦たんぱく）の作り方

【材料】

グルテンの粉	3 カップ
ぬるま湯	3 カップ
水	1.5 リットル
塩	大さじ 1
しょうゆ	大さじ 2
ガーリックパウダー	お好みで
カエンペパー	香りづけ程度
クミン	小さじ 1/2
粉昆布だし	小さじ 1

【作り方】

1. ボールにぬるま湯を入れ、かたまりができないように、片手で混ぜながら、グルテンの粉を少しずつ足していきます。一度にたくさん入れると、タイヤのゴムのように固くなります。（最初は少量から試してみる方がいいかもしれません）
2. 全部まとまるまで混ぜて、みみたぶくらいのやわらかさにします。（お好みでかたさを調節できます。かためが好きな場合は、粉を足します。）
3. 水を鍋に入れて、塩、ガーリックパウダー、しょうゆ、カエンペパー、クミン、粉昆布だし（お好み）で味をつけ、わかします。
4. わいたら、グルテンを 2 センチくらいに細かくちぎって平たくつぶして、鍋に入れていきます。
5. 30 分くらい煮たら、一つとりだし包丁で切ってみて、中身と外側が同じかたさになっていれば、できあがり。
6. ざるにあけて、冷まします。
7. 冷めたら、少ししぼって、料理に使います。（少ししぼる方がくさりにくいです）

作りおきをするときは、ジップロックに入れて、冷凍庫に入れます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第8話 イエスさまの子供時代

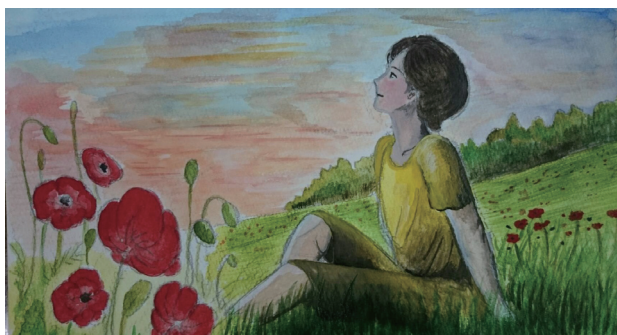
イエスさまはその幼年時代を小さな山村で過ごされました。このお方は神の御子でしたから、地上のどこでもご自分の家とすることがおできになったはずでした。

このお方はどの場所にとっても誉れとなられたことでしょう。しかし彼は金持ちの家や、王の宮殿には行かれませんでした。このお方はナザレの貧しい人々の間に住まわれることを選ばれたのです。

イエスさまは、ご自分が貧しい人々の試練を理解されるということ、貧しい人々に知ってほしいと望んでおられます。このお方は彼らが負わなければならないすべてのことを負われました。このお方は彼らに同情し、助けることがおできになります。

幼少時代におけるイエスさまについて、聖書は次のように述べています。「幼な子は、ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがその上にあった。」「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された」(ルカ 2:40, 52)。このお方の知力は聡明(そうめい)で活発でした。彼は理解に早く、その年齢をこえた思慮深さと知恵をあらわされました。それでいながら、このお方は単純で子供らしく、その心と体は、他の子供が成長するのと同じように成長しました。

しかし、イエスさまがすべてのことにおいて、ほかの子供たちと同じようであったわけではありません。このお方はいつもやさしい無我(むが)の精神をあらわされました。彼の自発的な手は、いつも他の人々に仕える準備ができてい



ました。このお方は忍耐がよく、誠実であられました。

正しいことのためには岩のように堅く立ちながら、このお方はす